

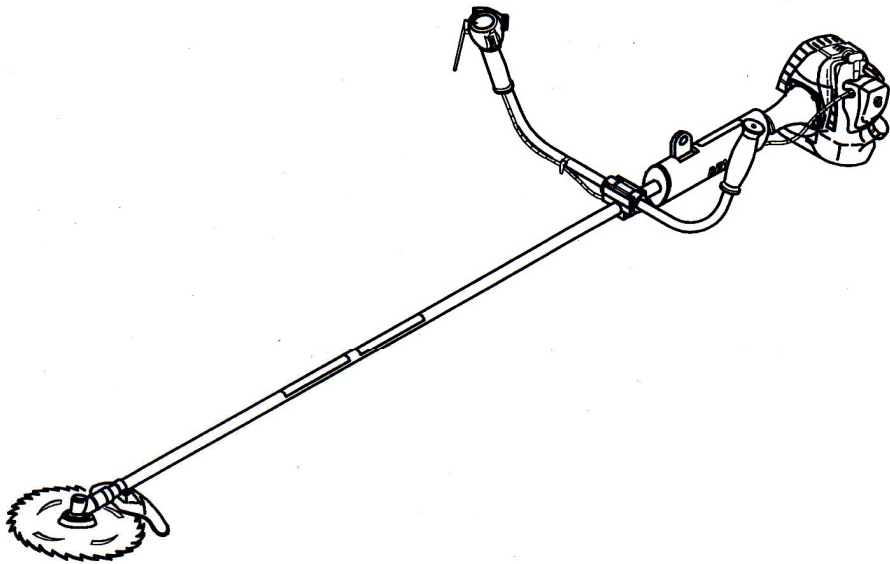
E-JE

ショルダー式刈払機

23ccエンジン対応棹： BYN YHN

26ccエンジン対応棹： U R 2 BA
AH HFL

取扱説明書



⚠ 注意

- 製品をお使いになる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 取扱説明書はいつでも読めるように大切に保管してください。



山田機械工業株式会社

はじめに


このたびはビーパー刈払機をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は製品の正しい取扱方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。

初めてお使い頂く方はもちろん、すでにご使用の経験をお持ちの方にも再認識する上でお役に立つものと考えております。この取扱説明書および別冊エンジン取扱説明書も合わせて繰り返しお読み頂き、良くご理解頂いた上で、安全で効率の良い作業を始めてください。

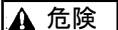

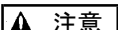
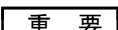
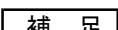
ビーパー刈払機は常におこたらない品質改良のため、取扱説明書の中にお買い上げの製品と詳細において異なる場合があります。あらかじめご了承ください。お買い上げの製品またはこの取扱説明書の内容に関するご質問は、お買い上げ店または営業所までお問い合わせください。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な事項です。よく読んで必ず守ってください。

・ 注意表示について




本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

-  **危険** : 注意事項を守らないと、火災の恐れがあるものを示しています。
-  **警告** : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
-  **注意** : 注意事項を守らないと、けがを負う恐れのあるものを示しています。
-  **重要** : 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがあるものを示しています。
-  **補足** : その他、使用上役立つ補足説明を示します。

・ 操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。

これらの表示に従って誤操作のないようご注意ください。

マーク表示部位	図 柄	意 味
燃料タンクキャップ		使用燃料の種別が「混合ガソリン」であることを表します。
エアクリーナカバー		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが閉じることを示します。
		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが開くことを示します。

注：機種によって図柄は異なることがあります。

目次

安全に作業するために	1
本製品をお使いになる前に	1
作業時の服装	1
火災防止	1
作業前の点検	2
作業時の注意	2
警告ラベルとその取扱い	3
1. 仕様・性能	4
2. 各部の名称	5
3. 組立	6
エンジンとメインパイプの組付	6
Uハンドルの取付	6
ループハンドルの取付	6
スロットルワイヤーの接続	7
ストップスイッチコードの接続	7
飛散防護カバーの取付	7
刈刃の取付	8
移動時カバーの取付	8
4. 燃料	9
使用燃料	9
混合比	9
給油	9
5. エンジンの始動と停止	10
エンジンの始動	10
エンジンの停止	11
スロットルレバーの操作	11
6. 刈払作業	12
肩掛バンドの調整	12
刈取作業	12
7. 各部の手入れと長期保管	13
刈刃	13
ギヤケース	13
肩掛式のフレキシシャフト	14
清掃	14
点検項目	14
長期保管	15

安全に作業するために

刈払機を安全にご使用頂くためには、正しい操作と定期的な保守が必要です。

取扱説明書および別冊エンジン取扱説明書に示されている内容をよくお読みになり、十分に理解されるまで刈払作業ならびに保守作業は行わないでください。

この取扱説明書に示されている操作方法および安全に関する注意事項は、刈払機を指定の使用目的に使用する場合のみに関するものです。

1 本製品をお使いになる前に

- 本製品は刈払専用機です。不測の事故を防ぐため、本来の使用目的以外には使用しないでください。
- 本製品は高速回転する刃物を装備しております。操作を誤ると大変危険です。次のような場合は作業を行わないでください。
 - ① 疲労など体調が悪い場合や、かぜ薬の服用時、飲酒時での作業。
 - ② 風の強い日や降雨、雷など天候の悪い時。
 - ③ 夜間や濃霧など、周辺の状況判断がむずかしい時。
 - ④ 子供や、説明を受けていない人には使用させないでください。
- 作業は30～40分を限度とし、10～20分休憩を取り、決して無理な作業はしないでください。
(参考) 厚生労働省では作業者の健康管理のため次のような基準が設けられています。

作業は連続3日を限度として

1回の連続作業時間	30分以内
1日の作業時間	2時間以内
1週の作業日数	5日以内
1月の作業時間	40時間以内

- 補給用燃料容器は丈夫で、密閉できるものを使用してください。
- エンジンの排気ガスによる中毒を防ぐため、換気の悪い場所での使用はしないでください。
- この取扱説明書は必ず保管して、分からないことがあった場合、必要に応じてご参照ください。
- 本製品を譲渡または貸与するときは、使用方法の説明とともに、この取扱説明書を必ず添付してください。

警告

本製品は運転中に電磁波が発生します。この電磁波はペースメーカーなどの電子機器の動作に影響する場合があります。ペースメーカーなど医療機器を装着している方は、本製品を使用前に医師または医療機器メーカーに相談してください。

2 作業時の服装

刈払作業には次のような用品を着用してください。

- ① すそを絞った長袖の上着と長ズボン。
- ② 滑り止めの付いた長靴または安全靴。
- ③ 帽子またはヘルメット、防護メガネ。
- ④ 丈夫な手袋、耳栓など。

3 火災防止

非常に引火しやすいガソリンを燃料としているため、次の事項をお守り頂かないと、火災の原因となります。

- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してください。くわエタバコなど、周りに火の気がないこと、燃料漏れがないことを確認してください。
- 燃料を補給するときは、燃料をこぼさないようにしてください。もしこぼれたときは必ずふきとってください。こぼれたまま作業を行うと、マフラの熱や、電気系統のスパークによる火災を起こし、やけどを負う危険性があります。
- 給油後、燃料容器は密閉し火の気がなく、日の当たらない涼しいところに置いてください。
- エンジンを運転したまま、または停止直後は、マフラが熱くなっております。枯れ草などの上に置かないでください。

安全に作業するために

4 作業前の点検

- 作業前には必ず各項目に従って点検を行ってください。
- 点検は必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが停止中でも安全のため、ストップスイッチは必ず OFF（停止）にしてください。
- 停止直後は、マフラや点火プラグに触れないでください。やけどの危険性があります。
- 製品の改造、分解はしないでください。故障や正常な操作ができなくなる危険性があります。
- 各ボルト、ナット、シャフトにゆるみやガタ等がないこと、特に刈刃の組込みが完全なこと、ギヤケースの支持部にガタのないことを確認してください。
- 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などがないことを確認し、異常のある場合は新品の刈刃と交換してください。
- 交換部品はすべて、ビーバー純正部品を必ず使用してください。特に刈刃部への代用品の使用はしないでください。
- とくどき刈刃と刃受金具を外し、ベアリング部に入りこんだ草、土、ほこりなどを取り除いてください。
- 転倒や不意の姿勢変化により、刈払機が作動して思わぬ負傷をすることがあります。次のような場合は必ず、エンジンを停止してください。
 - ① 移動や作業が終了して、本機を持ち運ぶする場合。
 - ② 巻付いた草などを取り除く場合。
 - ③ 作業中に後方より声をかけられた場合、振り向く前にエンジンを停止してください。
- 作業者に近づく場合は、木切れなどを作業者のそば近くに投げて合図をしてください。また笛を利用することもお勧めします。
- やけど防止のため、運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラなどが高温のため、触れないよう注意してください。
- 刈刃は必ず機種に応じて指定したビーバー純正の刈刃を使用してください。
- 作業中、草などに隠れた石や木の切株などに十分注意してください。もし刈刃がこれらの硬いものに当たった場合は、すぐにエンジンを停止し刈刃に異常がないか点検し、異常がある場合は交換してください。
- 傾斜地などは滑りやすいので足元に十分注意してください。
- 作業が終わって移動、または収納する場合は刈刃に移動時カバーを必ず取り付けてください。

5 作業時の注意

- エンジン始動の際、周囲に人がいないこと、刈刃が地面その他のものに触れていないことを確かめてください。
- 感電ショックを受けないよう運転中は、点火プラグキャップや、高圧コードに触れないように注意してください。
- 作業者の周囲 15m 以内に人を近づけないでください。
- 飛散防護カバーを外した状態で使用しないでください。
- 作業中異常振動や異常音を感じたら、ただちにエンジンを停止し詳細に点検してください。
- 作業中ハンドルやグリップをしっかり握って操作してください。不意に硬いものが当たった時に手から外れることがあり危険です。

警告

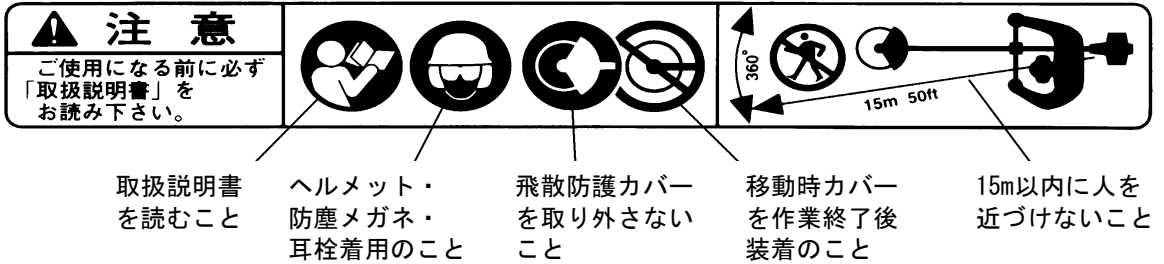
- 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。
- 改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用方法と異なる場合は、メーカー保証対象外となります。



安全に作業するために

警告ラベルとその取扱い

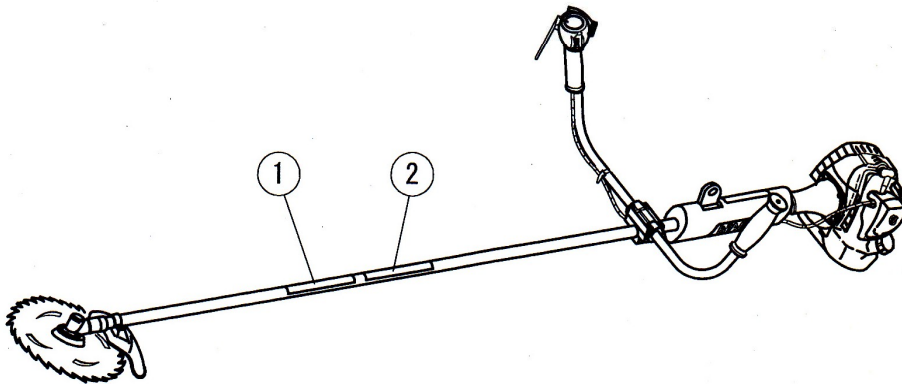
① 警告ラベル



② 型式名ラベル



- 上記ラベルはメインパイプに貼り付けてありますが、エンジン部に貼り付けのラベルについての詳細は別冊エンジン取扱説明書をご覧ください。



■ ラベルのメンテナンス

- 警告ラベルは、いつもきれいにしておいて傷をつけないようにしてください。
- 警告ラベルが汚損したりはがれた場合は、お買い上げの販売店に注文し、新しいラベルと貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

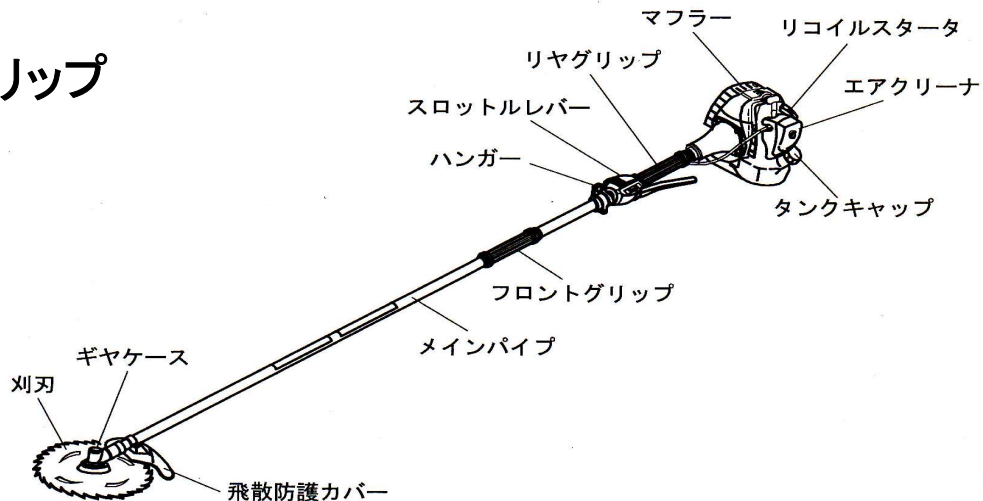
1. 仕様・性能

ビーバー肩掛式刈払機								
楯型式	外形寸法 (全長/全幅/全高) cm			適用エンジン機種 (表中○印で示す)				
	Uハンドル	ループハンドル	2 グリップ°	A221MY	TS230M	A270M	T260BS	
				乾燥質量 kg (楯+エンジン)				
BYNU	175/61/38				○	4.2		
BYNR		175/23/24			○	3.9		
BYN2			175/23/24		○	3.8		
YHNU	175/61/38				○	4.2		
YHNR		175/23/24			○	3.9		
YHN2			175/23/24		○	3.8		
U	175/61/36			○	4.0			
	177/61/38						○	4.8
R		175/24/21		○	3.6			
		177/24/25					○	4.4
2			175/22/21	○	3.5			
			177/24/25				○	4.3
BAU	177/61/38						○	4.9
BAR		177/24/25					○	4.5
BA2			177/24/25				○	4.4
AHU	177/61/38						○	4.8
AHR		177/24/25					○	4.4
AH2			177/24/25				○	4.3
HFLU	208/61/38						○	4.9
HFLR		208/24/25					○	4.5
HFL2			208/24/25				○	4.4
エンジン仕様	排気量 (cc)		21.0	22.5	25.6	25.4		
	点火プラグ		C16Y	BM6A	BPMR8Y	BPMR7A		
	燃料		混合ガソリン(ガソリン:2サイクルオイル JASO FC級又はFD級) 50:1					
	燃料タンク容量 L		0.5		0.6	0.48		
刈 刃	A221MY, TS230Mエンジン : 9インチチップソー (外形230mm)							
	A270M, T260BSエンジン : 10インチチップソー (外形255mm)							
刈刃の回転方向		上から見て反時計方向						

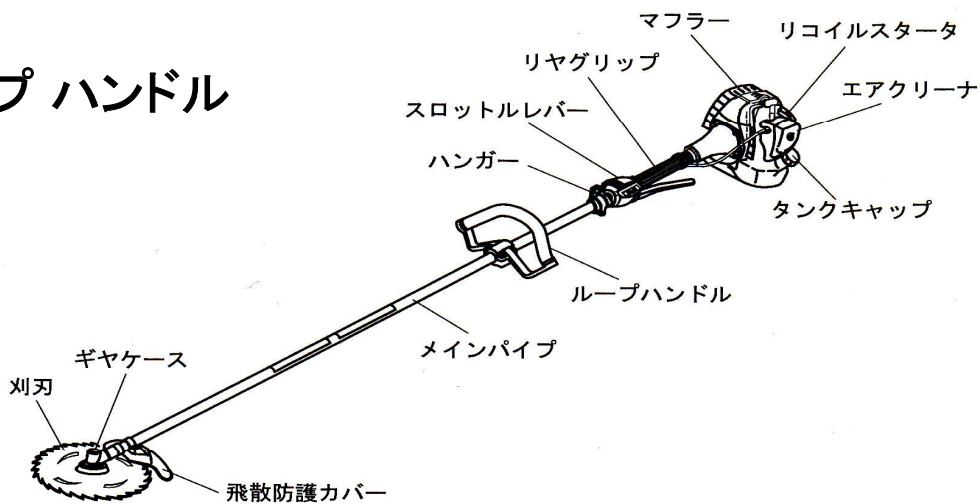
- ・乾燥質量は飛散防護カバー、肩掛バンド、刈刃を含んでおりません。
- ・外形寸法はエンジン機種により多少異なります。

2. 各部の名称

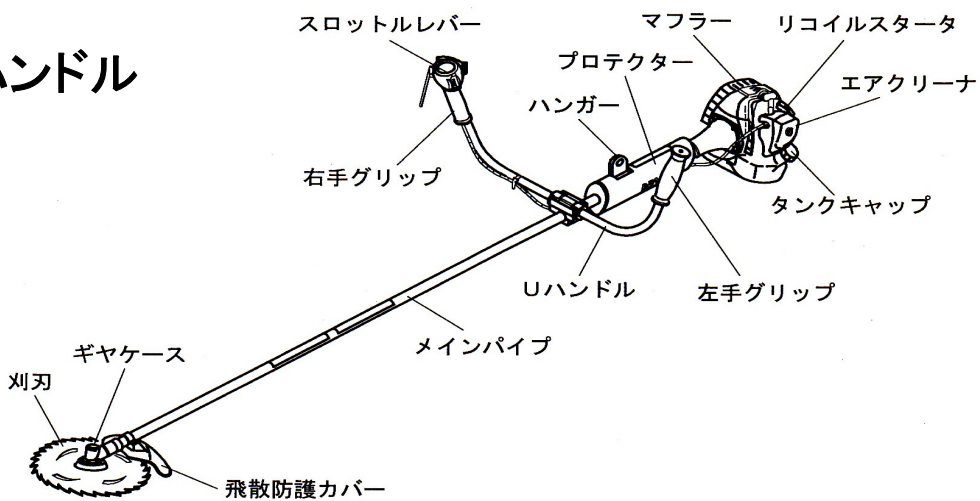
2 グリップ



ループハンドル



Uハンドル



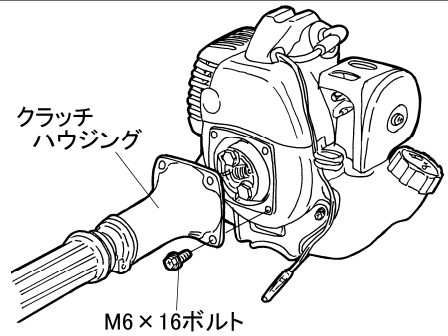
3. 組立

エンジンとメインパイプの組付

[A270M]

メインパイプのクラッチハウジングを付属のボルト (M6x16) でエンジンに組付け、ゆるまないよう均等で確実に締め付けてください。

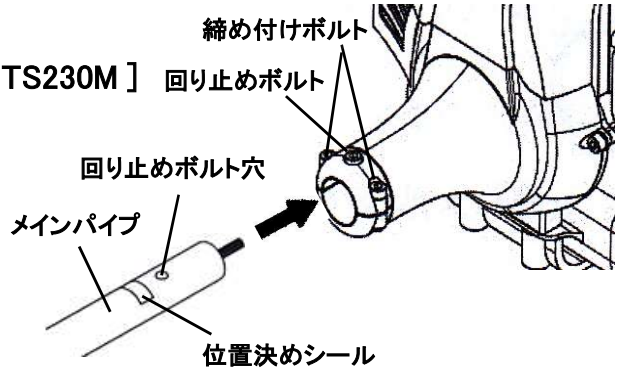
[A270M]



[TS230M]

- ① メインパイプの位置決めシールまでエンジンをはめ込み、回り止めボルト穴と回り止めボルトを合わせゆるまないよう確実に締め付けつけてください。
- ② 締め付けボルト2本ゆるまないよう確実に締め付けてください。

[TS230M]



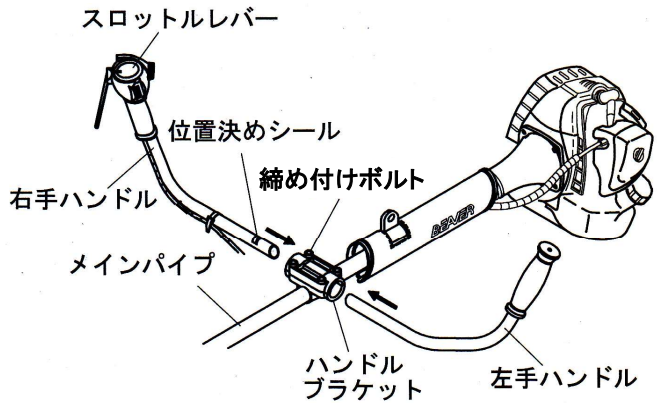
* [T260BS] は別紙チラシによります。



エンジンの燃料タンクが下、メインパイプの先端の刈刃取付部も下になるように取り付けてください。

Uハンドルの取付

- ① メインパイプに取り付けられているハンドルブラケットの締め付けボルト4本を付属の棒レンチでゆるめてください。
- ② 右手ハンドル (スロットルレバー付き) を位置決めシール位置までハンドルブラケットに差し込み、右手ハンドル側の締め付けボルト2本を仮締めしてください。
- ③ 左手ハンドルを右手ハンドルに突き当たるまでハンドルブラケットに差し込み、左手ハンドル側の締め付けボルト2本を仮締めしてください。
- ④ ハンドルの傾きを調整し、締め付けボルト4本を付属の六角棒レンチでしっかり締め付けてください。



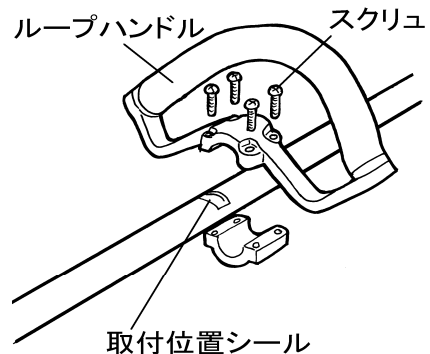
使用中にハンドルが動かないようしっかり確実に締め付けてください。

ループハンドルの取付

メインパイプに貼り付けてある取付位置シールの赤い線の後に、ループハンドルを4本のスクリューで取り付けて下さい。

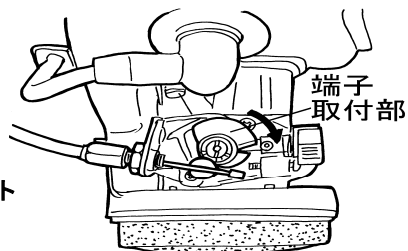
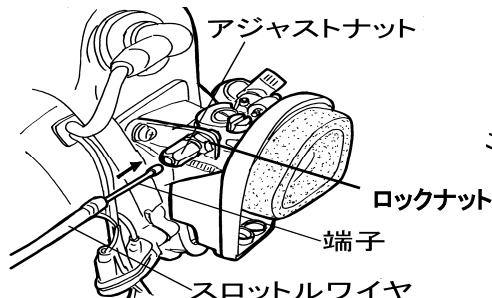
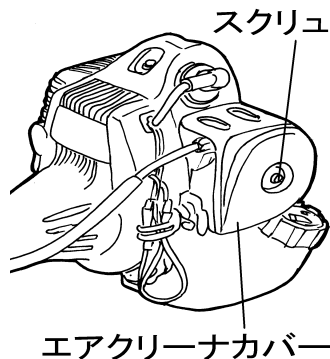
補足

取り付け位置シールは最適と思われる取り付け位置を示していますが、身長や好みによって適当な位置に取り付けてください。



スロットルワイヤーの接続

- ① エアクリーナカバーのスクリュをゆるめてカバーを外してください。
- ② メインパイプに組込んであるスロットルワイヤの端子をアジャストナットに通してください。
- ③ キャブレタの端子取付部をワイヤ側に回しながらワイヤ取付部の凹みにはめ込んでください。
- ④ ロックナットをゆるめ、ワイヤの遊びが1～2mmになるようにアジャストナットを調整しロックナットで固定してください。

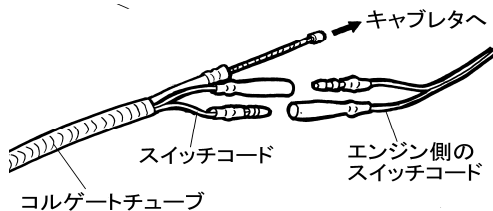
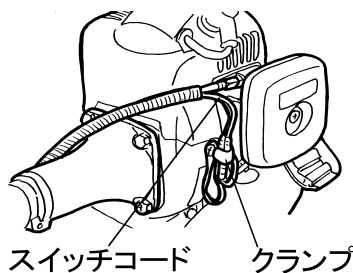


ストップスイッチコードの接続

- ① スロットルワイヤと一緒に組込んであるスイッチコードの端子をエンジン部の端子に接続してください。
- ② エンジンのクランプにスイッチコードを固定してください。

補足

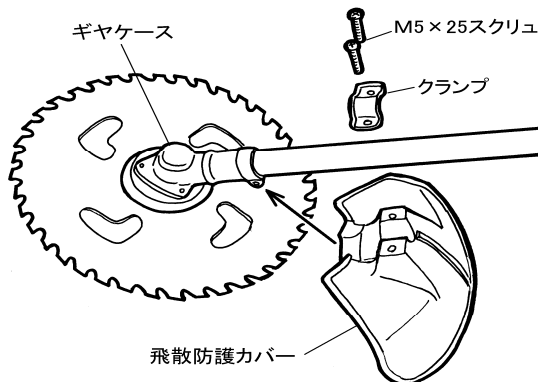
スイッチコードやスロットルワイヤが作業中、木の枝などに引っ掛かる恐れがあります。本機からはみ出ないように固定してください。



飛散防護カバーの取付

ギヤケースに飛散防護カバーを当て、クランプとボルト (M5x25) 2本で均等に締め付けてください。

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 刈刃との隙間を十分とって、刈刃に飛散防護カバーが触れないように取り付けてください。 ▪ 飛散防護カバーは所定の位置にしっかり取り付けてください。取り外したり、ゆるんだままご使用になるとカバーが刈刃に触れて破損したり、はね返った石や木切れなどで重大な人身事故につながる恐れがあります。
---------------	--



刈刃の取付

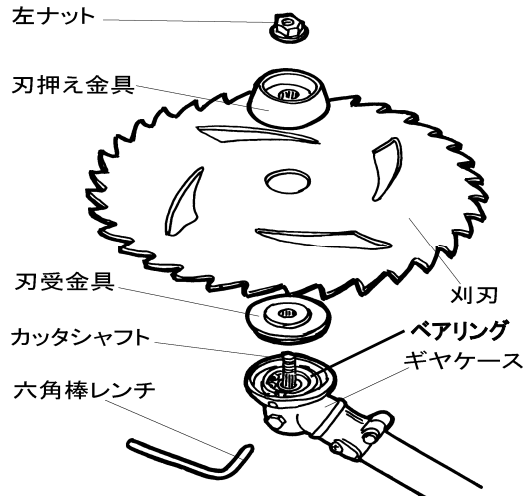
- ① 刃受金具を Cutter シャフトにはめ込み、六角棒レンチを差し込んで回り止めにしてください。
- ② 刈刃をビーマークのある面をギヤケース側にして、刈刃の中央の穴を刃受金具の凸部にはめてください。
- ③ 刃押え金具の凹部を刃受金具の凸部と Cutter シャフトにはめ込んでください。
- ④ 左ナット、または、左ボルトで確実に締めてください。

重要

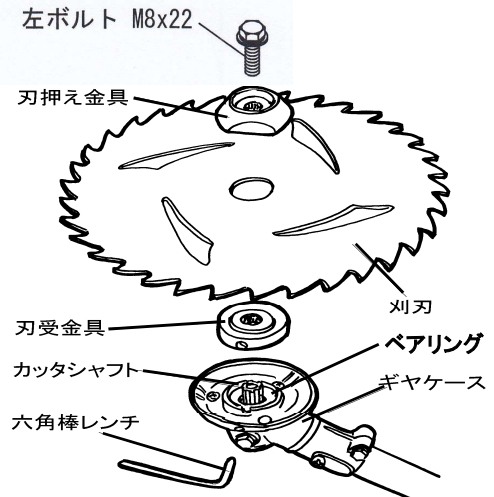
- 刈刃を交換するときその都度刃受金具も外し、ベアリング部に入りこんだ土や草をきれいに取り除いてください。ベアリング摩擦によるガタ、さびなどが発生しシャフトが外れる恐れがあります。
- 本機に付属の刈刃を超える大きさの刈刃は使用しないでください。

警告

- 刈刃の交換は必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業時は手袋等を着用ください。
- 取り付け後、刈刃およびカバーが完全に取り付けられていることを確認してください。
- 刈刃取付部品は、他機種部品を使用しないでください。規格やサイズが合わない場合があると、刈刃が外れ重大な人身事故につながる恐れがあります。



刈刃取付ナット式



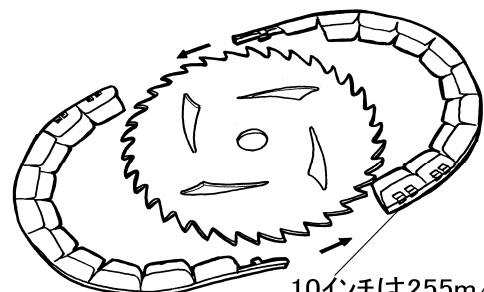
刈刃取付ボルト式

移動時カバーの取付

作業が終わって移動したり収納する場合は、刈刃に移動時カバーを取り付けてください。

警告

作業が終わって本機を持ち歩きする場合は、刈刃が人や物に触れる恐れがあります。必ず移動時カバーを取り付けてください。



10インチは255m/m,
9インチは230m/mの位置で止めてください

4. 燃料

使用燃料

燃料は、ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルの混合燃料をご使用ください。

重要

- ・ オイルは、必ず空冷2サイクルエンジン用オイルを使用してください。4サイクルエンジン用オイルや水冷2サイクルエンジン用オイルは使用しないでください。スパークプラグ汚損やピストンリング固着、マフラづまりなどを起こしやすくなります。
- ・ 燃料は、紫外線や高温に長時間さらされると変質劣化し、始動不良や出力不足の原因になります。混合燃料は、30日以内を目安に使い切るようにしてください。
- ・ 燃料の保管は室内の冷暗所に保管してください。
- ・ 水の混入燃料を使うと、キャブレタやエンジンの内部が腐食します。本機や燃料容器に水が掛らないようにしてください。

混合比

燃料は、自動車用無鉛ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルを下記割合で混合容器に入れ、容器を振ってよく混ぜたものを使用してください。

2サイクルエンジン用オイル

(JASO FC級 又は FD級) 50 : 1
ガソリン1Lに対してオイル20mL



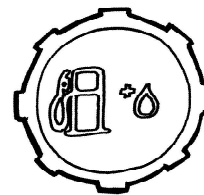
給油

- ① 給油する機械を屋外の平坦な場所に置き、安定させてください。
- ② 燃料タンクのキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取り除いてください。
- ③ 燃料タンクのキャップを取り外し、8分目を目安に少しずつ給油してください。
- ④ 給油が終わりましたら燃料タンクのキャップを確実に締め付けて、燃料漏れのないことを確認してください。

危険

- ・ 燃料タンクへの給油は、屋外の平坦な場所で行ってください。
- ・ 給油時はまわりにタバコなどの火の気のない所で行ってください。
- ・ 作業の途中で給油を行う場合は、必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- ・ 燃料タンクのキャップは確実に締めてください。
- ・ 給油時に燃料がこぼれた時、エンジンを始動すると火災の恐れがあります。必ず始動前には、布でふき取ってください。

燃料キャップ



重要

燃料タンクへの給油は、8分目を目安にしてください。燃料を入れ過ぎると、運転中に燃料キャップから燃料が漏れる恐れがあります。

5. エンジンの始動と停止

エンジンの始動

- ① ストップスイッチが始動側の位置にあること、また、スロットルレバーが低速側にあることを確認してください。

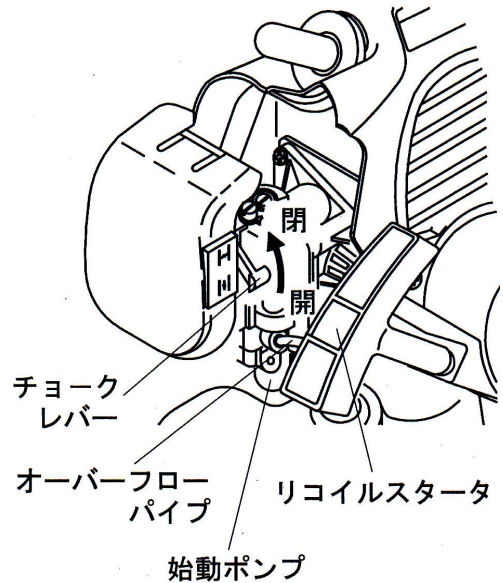
補足

ストップスイッチが停止側にあるとエンジンは始動しません。

- ② キャブレタの下にある始動ポンプを数回押し、オーバーフローパイプに燃料が流れるのを確認したら押すのをやめてください。
- ③ チョークレバーを閉にし、刈払機をしっかり保持し、リコイルスタータを軽く引いてください。

重要

スタータロープは最後まで引ききったり、引っ張った状態から手をはなさないでください。



警告

- エンジン始動時は、まわりに人がいないこと、刈刃が地面に触れていないことを確認してから始動してください。
- スロットルレバーが高速側に引かれ、セーフティレバーが引かれた状態でエンジンを始動すると、始動と同時に刈刃が回転し人身事故の恐れがあります。

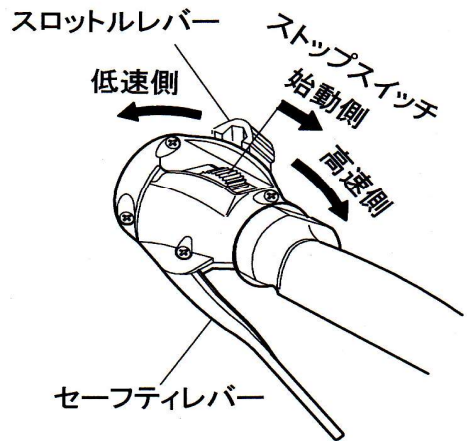
注意

エンジンが遅れてかかる場合があります。エンジンがかかるまで刈払機をしっかり保持してください。

- ⑤ エンジンが始動したらチョークを徐々に開き、エンジンを2～3分暖機運転をしてください。

補足

- エンジンが暖まっているとき（停止後、約15分以内）は、始動ポンプの操作は不要です。但し、燃料がなくなり、燃料の補充をした後の再始動には、始動ポンプの操作をしてください。
- エンジンの停止直後の再始動は、始動ポンプを押さずにチョークを開にし、スロットルレバーを戻し、スタータロープを引いてください。

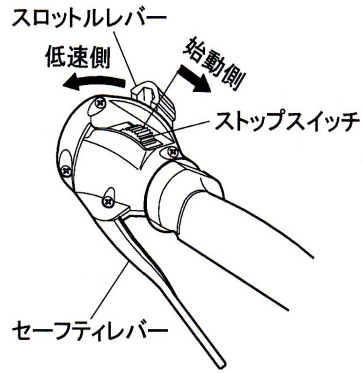


エンジンの停止

スロットルレバーを低速側に移動させ、アイドルリング状態にします。ストップスイッチを停止側〔停止〕に移動するとエンジンが停止します。

重要

緊急時を除く高速回転からのエンジン停止は、エンジンに無理がかかります。必ずアイドルリング状態にしてからエンジンを停止してください。



スロットルレバーの操作

- ① エンジンの始動前には、ストップスイッチを始動側〔運転〕に移動し、エンジンを固定してエンジンを始動してください。
- ② セーフティレバーをグリップに当たるまで握り、スロットルレバーを徐々に高速側に移動させ、刈刃の回転を草刈作業に適した速度に調整してください。

補足

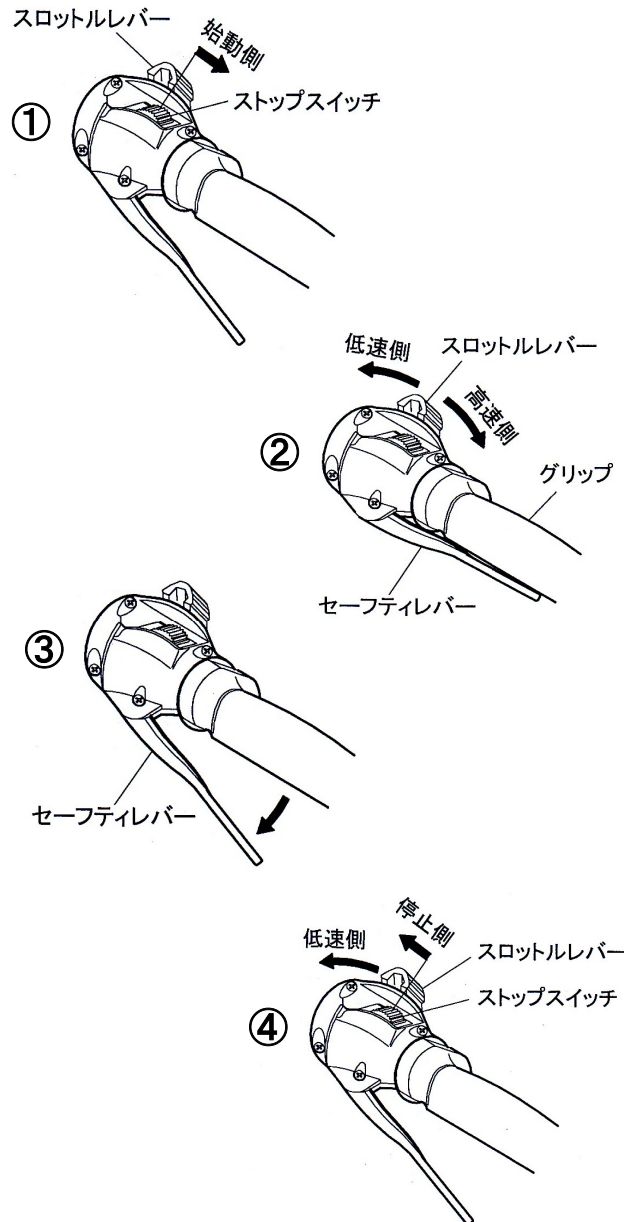
草刈作業中は、セーフティレバーを握ったまま作業を行ってください。

- ③ 草刈作業終了後は、セーフティレバーを放し、アイドルリング状態に戻します。エンジンの回転が止まると同時に刈刃の回転も止まります。

補足

作業中セーフティレバーを放しても、再びセーフティレバーを握ると元の回転速度にもどります。

- ④ エンジンの停止はスロットルレバーを低速側に移動させてください。アイドルリング状態でストップスイッチを停止側〔停止〕に移動するとエンジンが停止します。



6. 刈払作業



警告

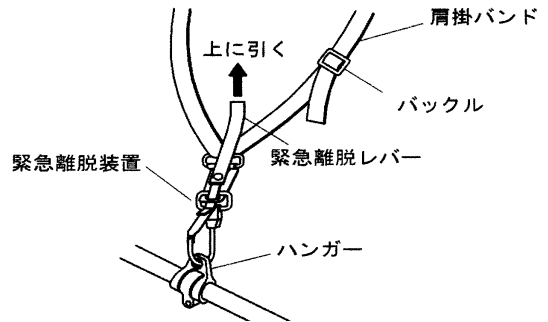
作業を始める前に必ず、1 ページ、2 ページの「安全に作業するために」の事項を守ってください。

肩掛バンドの調整

肩掛バンドを装着し、作業姿勢や体型に合わせてバックルで肩掛バンドの長さ調整を行ってください。刈刃と地面がほぼ平行になるようにしてください。

重要

緊急離脱レバーを上を引き、緊急離脱装置が正常に作動していることを確認してください。



注意

火災などの緊急時には、緊急離脱レバーを上を引き上げ、刈払機を身体から切り離してください。

刈取作業

- ① エンジン回転を草の状態によって調整してください。柔らかい春草などはスロットルを半開程度、秋草や密生している草は 2/3 開程度に回転を上げてください。
- ② 足は左右に 60~70cm 開き、右足を前にし、右足から進むようにします。刈刃は左に 30° 斜けた状態で右から左に向かって振ります。刈刃いっぱい刈ろうとせずに、刈刃の左前半分で刈るようにしてください。



警告

必ず、右足を先に出して進んでください。左足を先に前に出すと刈刃で切る恐れがあります。

重要

本刈払機は草刈専用です。山の下刈りなどの木の切断には使用しないで下さい。ギヤ、シャフトの防振装置が破損したりメインパイプが曲がることがあります。

補足

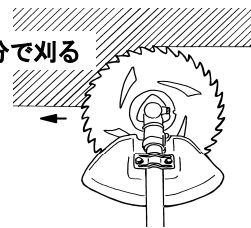
- ・ 刈刃の回転が低すぎると草の巻付きが多くなるばかりでなく、クラッチの早期摩耗の原因ともなります。
- ・ 刈刃いっぱいの幅で刈ろうとすると、刈り残しができたり、刈った草がきれいにそろわず飛散したりします。



警告

- ・ 刈払作業はどのような場合でも、刈払い対象物を刈刃の左側で切るように、必ず右から左に向かって切ってください。刈刃の回転が左回転のため刈刃の右側に硬いものが当たると、刈刃が勢いよく作業者にはねかえってることがあり非常に危険です。
- ・ 刈払作業の際、草に隠れた石や木の切り株には十分注意してください。刈刃が欠けたり石が手前に飛んでくることがあり危険です。

左前半分で刈る



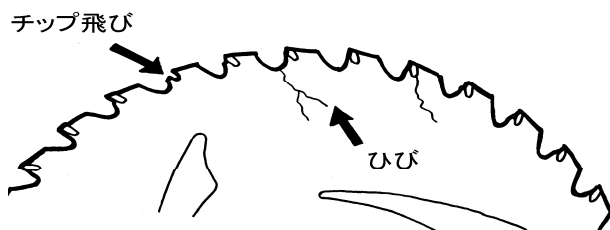
7. 各部の手入れと長期保管

警告

- ・点検整備は必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が停止してから行ってください。
- ・運転直後はギヤケースが高温になっております。冷えるまで触れないでください。高温によるやけどの恐れがあります。
- ・本機及びエンジンの改造や分解はしないでください。事故や重大な人身事故を招く恐れがあります。製品の改造が原因で故障した場合は、メーカー保証対象外となります。
- ・部品交換は純正部品または指定品を使用してください。
- ・点検整備は作業前および作業が終了した都度行ってください。

刈刃

- ① 刈刃を点検する前には必ずエンジンを停止してください。
- ② 刈刃部のシャフト、ボルト、支持部にガタやボルトのゆるみがないか確認し、異常がある場合は増し締め、または、新しい部品と交換してください。
- ③ 刈刃や飛散防護カバーに草やビニールが巻付いていないか確認してください。また、巻付防止カバーや、刃受金具の中に巻付いた草やビニールが入っていないかも確認してください。
- ④ 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などがいないか特に注意して点検してください。異常のある場合は新品と交換してください。

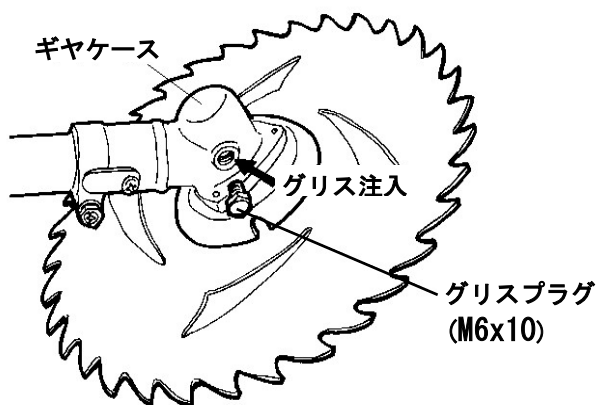


重要

- ・刈刃の切れ味が悪いとエンジンやシャフトに無理がかかるばかりでなく、作業能率も低下し疲労度や危険性も増します。
- ・巻付防止カバーや刃受金具の中に巻付いた草やビニールが入ったまま使用すると、回転が上がらなったり、ベアリングの異常摩耗などの故障につながり危険です。

ギヤケース

使用25時間ごとにギヤケースのグリスプラグを外してグリスを補充してください。



肩掛式のフレキシブルシャフト [HFL]

使用25時間ごと、もしくは振動を感じた時は、フレキシブルシャフトヘグリスを10g補充してください。

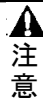
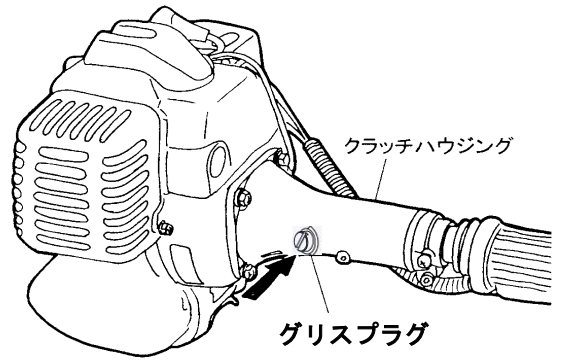
- ①エンジンをスタートさせアイドルより少し上がった位でまわしてください。
- ②クラッチハウジング部のグリスプラグを外しグリスプラグ穴にグリスチューブをねじこんでグリスを補充してください。

補足

グリスは必ず付属品のビーバー純正グリスを補充してください。

重要

- ・グリスだまりの容量は50ccです。無理に入れないでください。強引に入れるとグリスがクラッチの方に流れ故障の原因となります。
- ・グリス不足になると振動が大きくなったり、インナーパイプが過熱してフレキシブルシャフトが破損することがあります。



グリス補充時には刈刃が人や物に触れないように十分注意してください。

清掃

エンジンのエアクリーナや冷却風の通り道に付着したホコリやゴミをていねいに取り除いてください。

重要

ホコリやゴミの付着はオーバーヒートの原因となります。

点検項目

点検部位	点検内容	処置
刈刃	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 取付ボルト、ナットのゆるみ ▪ 割れ、曲がり ▪ 刃先摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換 ▪ 交換
カッタシャフト	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ガタ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ベアリング交換
ギヤケース	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 締付ボルトゆるみ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め
刃受金具	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 内部に草などの混入 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
前ジャバラ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 被覆破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換
飛散防護カバー	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 締付ボルトゆるみ ▪ 破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換
ハンドル	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 取付ボルトのゆるみ ▪ 破損、曲がり 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換
ストップスイッチ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ コードの抜け ▪ コードの断線 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 接続 ▪ 交換
エンジン取付部	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 取付ボルトのゆるみ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め
エアクリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 目づまり 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
冷却風の通路	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 草、ほこりの付着 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
燃料タンク	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 傷による漏れ ▪ 取付ネジゆるみ ▪ キャップからの漏れ ▪ 燃料パイプに傷 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換 ▪ 増し締め ▪ パッキン交換 ▪ 交換
スロットルワイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 動き不良 ▪ 遊び不良 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換 ▪ 調整

長期保管

⚠ 危険

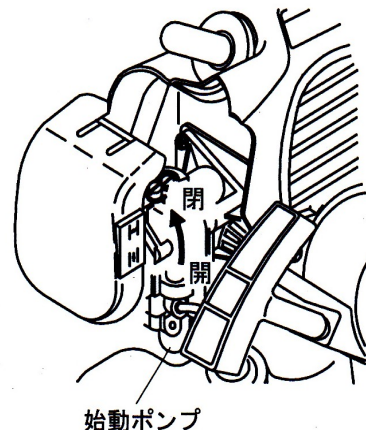
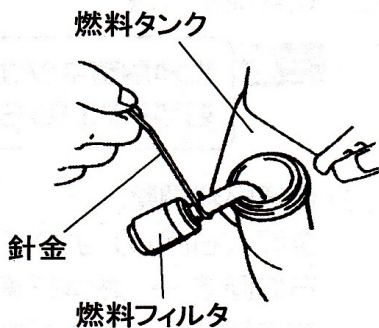
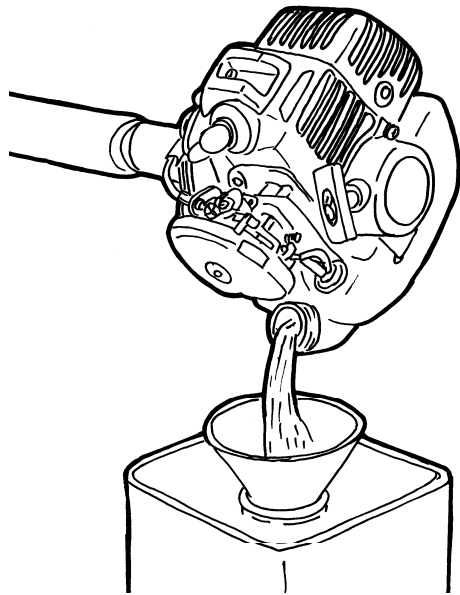
引火による火災の恐れがあります。

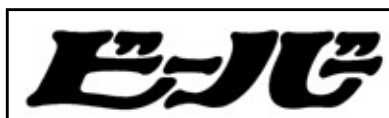
- 燃料の抜き取り時は、火気を遠ざけてください。
- 燃料をこぼさないよう注意し、こぼれた燃料は完全にふき取ってください。

重要

- 長期間（1カ月以上）使用しない場合は、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が変質してキャブレタ内部がつまり、エンジン故障（始動不良や出力不足）の原因となります。
- 保管時は、燃料タンクのキャップをゆるめにしてください。強く締め過ぎると経時変化によりパッキンが変形することがあります。

- ① 機体の清掃を行い、各部を点検してください。損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。
- ② 燃料タンクから燃料を容器に排出した後、燃料フィルターを引き出してください。
- ③ 燃料フィルタの目づまり、ゴミの付着等があれば、取り除き清掃してください。
- ④ キャブレタの始動ポンプを燃料が出なくなるまで押し、燃料タンクに戻った燃料を容器に移してください。
- ⑤ 燃料フィルタをタンクに戻し、燃料キャップをはめてください。
- ⑥ エンジンを始動し、自然に止まるまで運転してください。
- ⑦ 点火プラグを外し、2サイクルエンジンオイルを数滴シリンダ内に注入し、リコイルスタータを数回引き、シリンダ内にオイルを塗り広げ、圧縮のあるところで止めてください。
- ⑧ 移動時カバーを刈刃に取り付け、チリやホコリが付着しないように保管してください。





本 社 〒651-2404 神戸市西区岩岡町古郷1534 TEL 078(967)1481 FAX 078(967)3090

2021.3 印刷